

「子供のSOSを受け止め、支援する力」の向上のために

子供が安心して相談できるようにするためには、日常から、一人一人の教職員が「子供のSOSを受け止め、支援する力」を高める必要があります。

以下に、校内研修等の内容例を示します。

校内研修等の内容例

1 ねらい

- 「SOSの出し方に関する教育」のねらいを理解する。
- 児童・生徒から相談を受けたときの受け止め方について考えを深め、日常の教育活動の中で実践できるようにする。

2 研修の流れ（15分間）

| 活動 | 留意点 |
|--------------------------------------|---|
| ①「SOSの出し方に関する教育」のねらいを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○本書100ページを活用し、「SOSの出し方に関する教育」のねらいを確認する。 ○子供にとって、SOSを出しにくい実情があること、子供が安心して相談できるようにするためには、子供の不安や悩みに対して、全ての教職員が、いつでも相談に応じる体制が大切であることを押さえる。 |
| ②子供から相談を受ける場面を想起し、受け止め方について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○子供から相談を受ける場면을提示する。（例：下巻99ページ） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>（場面例 生徒Aは、バレーボール部に所属し、積極的に活動していたが、同じチームの生徒Bたちのミスを厳しく指摘することが多く、次第に仲間から疎まれ、無視されるようになった。</p> <p>【課題】生徒Aがあなた（教員）に相談してきたら、どのような言葉掛けをしますか。 （生徒Aを取り巻く状況の詳細を知らないとします。）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○どのような言葉掛けをするか個人で考える。 ○二人一組で子供役と先生役になり、相談する場面をロールプレイする。相談を受けた先生役は、受け止める言葉掛けをする。 ○役を入れ替え、同じようにロールプレイする。 ○子供役は先生役から掛けられた言葉を聞いてどう感じたか、互いに伝え合う。 |
| ③子供のSOSを受け止め、支援するために大切なことについて共通理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○下に示した「SOSを受け止めるときの言葉例」を参考にして、効果的な言葉掛けを確認する。 ○子供が安心して相談できるようにするために大切なことは何かを考え、共有する。 <p>例）・最後まで丁寧に話をよく聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの視点に立った日常からの関わり ・必ず力になることを伝え、悩みの解消に向けて組織で支援すること |

【参考】SOSを受け止めるときの言葉例

| 気になる様子が見られたときの言葉例 | 相手の思いを受け止めるときの言葉例 | 場合によっては好ましくない言葉例 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・どうしましたか？ ・どうしたの？何かつらそうだけど ・なんか元気ないけど大丈夫？ ・何か悩んでいる？よかったら話して ・何か力になれることはない？ ・何か悩み事があるんじゃない？ ・もしよかったら、心配なことを話してくださいませんか？ | <ul style="list-style-type: none"> ・つらかったですね ・大変でしたね ・よく耐えてきましたね ・今までよく頑張ってきましたね ・よく話してくれましたね ・あなたのことが心配 ・力になりたい ・私にできることはある？ | <ul style="list-style-type: none"> ・頑張り ・逃げてはだめだ ・そのうちどうにかなるよ ・そんなこと考えちゃだめ <p>※相談しても受け止めてもらえなかったと感じる場合があります。</p> |